

科目名	グローバルヘルス論特講	担当者	ガイ 蓋 ジャクエン 若 瑛	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバルヘルスとは、国際的な視点で健康問題をとらえ、その現状、要因、改善対策、並びに国際社会の様々なステークホルダー（国際機関、発展途上国と先進国政府、財団、市民社会、企業など）の在り方、動向と政策のインパクトを学際的にアプローチする学問です。医療技術の進歩と人口・疾病構造の転換に伴い、今、世界は前代未聞の健康転換を経験しています。それと同時に、地球規模の健康格差が拡大しており、経済開発、社会開発・人間開発、貧困、社会的不平等、ジェンダー、ガバナンス、人権など複雑な社会決定的要因と関わります。この科目では、先行研究、国際機関の報告書・統計データなどの情報検索・活用や自分の批判的な考えを通して、地球規模の健康問題の現状と要因に対する認識と理解に基づき、ユニバーサルヘルスカバレッジ、持続可能な開発目標などグローバルヘルス、人間の安全保障に関わる最新の政策動向に対する妥当な評価と批判という問題の提起⇒分析⇒解決のプロセスを学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 健康転換、世界疾病負担、健康の社会決定的要因、ヘルスシステム、プライマリヘルスカケア、経済開発・貧困削減、社会開発・人間開発、ガバナンス、ジェンダー、人権、ミレニアム開発目標（MDGs）、持続可能な開発目標（SDGs）、ユニバーサルヘルスカバレッジ、人間の安全保障などグローバルヘルスと関連分野の基本概念・理念を習熟し、発展途上国と先進国、様々な国・地域の健康問題の在り方と政策動向を把握する。</p> <p>【行動目標（SB0s）】 グローバルヘルスの主な研究・評価手法を理解し、先行研究と国際機関の報告書・統計データの活用方法を習得する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 基本教材と参考図書に参照</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 必要に応じて、グループディスカッションを行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 レポート課題に沿って、教材、参考図書・資料に基づいて課題をまとめる。ただ、それだけで説明が十分ではないと思われる場合があり、Web や図書、雑誌掲載論文に自らあたって学習を進めていく必要がある。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題の草稿は7月までに提出し、9月中旬までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題の草稿は11月までに提出し、翌年1月課題提出締切日までに、最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に沿った論理構築がなされているか。 3,000字程度という短い字数で、自分の意見をまとめられているか。 十分に教材を読み込んでいるかどうか。 参考文献、先行研究などの情報検索が十分かどうか。 脚注などレポート作成に必要な情報が正確に含まれているか。
	平常評価	20%	草稿に対するコメントに関する修正度合
履修者への要望	<p>グローバルヘルスは学際的な学問であり、様々な専門背景の方が大歓迎です。問題意識を持って、総合的な視野、論理的思考と問題解決志向を目指して、学習を進めてください。 また、国レベルの健康と保健医療の問題はグローバルヘルスの一部分なので、日本のことも十分理解しておくことが重要です。日常生活で触れるメディア、インターネットの情報も学びの種になります。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 国際保健医療学会編 教材名： 『国際保健医療学』（杏林書院、2013年）ISBN：978-4-33764405318 3,200円+税
	グローバルヘルス及びその関連分野の理論、方法論、課題、政策動向が網羅的に記述されています。第I部と第II部では、グローバルヘルスの理論と研究・実践の方法を学ぶことができます。第III部では、疾患・テーマ別の課題、第IV部ではグローバルヘルスの関連分野、第V部では、様々な発展途上国における実際的な応用が包括的に紹介されています。
参考図書	世界保健機関『世界保健統計2018』（英文：World Health Statistics 2018: Monitoring Health for the SDGs、世界保健機関HPからダウンロード可： https://www.who.int/gho/publications/world_health_statistics/2018/en/
履修上のポイント	以下の点に留意して、レポートをまとめること。 1. 国際的な視点で健康を考える必要性 2. 健康転換の視点を踏まえたグローバルレベルと国レベルの健康問題の趨勢 3. ヘルスシステム強化の意義 4. 健康と経済開発、社会開発・人間開発、貧困、社会的不平等、ジェンダー、ガバナンス、人権との接点 5. 統計データと指標の応用
レポート課題 1	健康転換の視点を踏まえて、先進国また発展途上国から1か国を選択し、適宜にデータと指標を引用しながら人口・疾病構造の特徴、ヘルスシステムと社会経済的開発の現状と問題点を分析し、政策に取り込むべき健康課題について意見を述べてください。 留意点： 世界保健機関、世界銀行などの国際機関のHPから様々な国別・地域別の健康指標、社会経済的開発指標、関連の報告書がアクセスできる。適宜に参照すると、レポートは書きやすい。
レポート課題 2	持続可能な開発の定義を理解しつつ、各自ご関心のある健康関連の持続可能な開発目標(SDG3)が内包する課題を挙げつつ、一つの国また地域をフォーカスして2030年の目標達成期限までの課題を想定し、自分なりの提案を3,000字程度にまとめる。 留意点： 現在進行形のテーマなので、Web検索なりで情報を収集してからレポートにまとめること。出版されている書籍よりは論文が主となる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 丸井英二・森口育子・李節子 教材名： 『国際看護・国際保健』（弘文堂、2012年）ISBN：978-4-33-576016-7 2,400円+税
	国際的な視点で健康問題をとらえ、グローバルヘルスにおける日本の役割と日本の健康課題の世界との接点を提示する教科書です。グローバルヘルスの対象、方法と実際応用にわたる枠組みを学ぶことができます。
参考図書	1. 世界銀行『包括で持続的な発展のためのユニバーサルヘルスカバレッジ：11か国研究の総括』、池上直己『包括で持続的な発展のためのユニバーサルヘルスカバレッジ：日本からの教訓』（日本国際交流センターでダウンロード可、 http://www.jcie.or.jp/japan/pub/publst/1453.htm) 2. 外務省国際協力局民間援助連携室『NGOのためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ハンドブックーすべての人に健康を届けるためには』（外務省HPでダウンロード可、 https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000079718.pdf)
履修上のポイント	教材と参考図書の以外に、ほかの文献や情報も積極的に収集して、グローバルレベル及び国レベルの健康アウトカムの改善に向けた取組みについてより深く考えることを期待している。レポートを通して、これまで触れたグローバルヘルスと関連分野の基本概念・理念への理解を再確認してほしい。
レポート課題 1	発展途上国におけるユニバーサルヘルスカバレッジの達成に向けて、どのような課題を直面しているのか、具体例を挙げて記述してください。 留意点： Web、メディアなどで適宜に情報を収集しながら、自分なりの考えと提案をまとめること。
レポート課題 2	グローバルヘルスの分野で今後期待できる日本の役割について意見を述べてください。 留意点： Web、メディアなどで適宜に情報を収集しながら、自分なりの考えと提案をまとめること。